

放射線の健康影響に係る研究調査事業 令和5年度研究報告書

研究課題名	放射線による健康影響不安を考慮した AYA 世代がん患者に対する包括的なピアサポート体制の構築
令和5年度研究期間	令和5年4月3日～令和6年2月29日
研究期間	令和5年度 ～ 令和7年度（1年目）

	氏名	所属機関・職名
主任研究者	佐治 重衡	福島県立医科大学 腫瘍内科学講座・主任教授
分担研究者	桜井 なおみ	キャンサー・ソリューションズ株式会社 代表取締役社長
若手研究者		

キーワード	AYA 世代、がん患者、ピアサポート、健康影響不安、放射線
-------	-------------------------------

本年度研究成果
I 研究背景 AYA 世代（15 歳以上 40 歳未満）のがん患者は、全がん罹患者数の約 2%と患者数が少なく、罹患臓器也多岐に及ぶため、1 つの医療機関や診療科で同世代の患者と出会える機会は成人がんや小児がんのそれと比べると少ない。また、心理・社会的成長期におけるがん罹患は、成人とは異なる多様な相談ニーズがあり、その内容や社会属性、居住地なども成長に応じて移行していくことから、医療機関内と地域が連携をして、長期的に支援をしていくことが重要である。福島県においては、これら若年世代特有の悩みに加え、遺伝や二次がんへの不安や放射線による健康影響への不安、さらに放射線影響に対する社会側の誤解や偏見への対処なども考えられることから、当事者ニーズに対応した、よりきめ細かいフォローアップ体制の構築が必要と考えられる。 II 目的 本研究では、こうした AYA 世代発症のがん患者の悩みや不安、孤立感を和らげるための一つの方法として、福島県出身者、在住者などを含めた AYA 世代発症の成人がん患者を対象とした包括的、かつ、継続的な心の支援体制（ピアサポート）の構築を目指す。 本年度は、①福島県に居住または福島県出身の成人 AYA 世代がん患者が抱える健康不安などの相談ニーズを把握し、その結果を踏まえて、②AYA 世代がん患者のピアサポートの在り方、③AYA 世代がん患者ピアサポートに関する情報発信・啓発の仕組みを検討した。 III 研究方法 ニーズ調査については、県内の地域がん診療連携拠点病院等で調査依頼のカードを配布（QR コード付き）、ポスターを掲示し幅広く参加者を募集した（自由意志参加）。回答は無記名式の WEB 調査

とし、個人が特定できない仕組みで対応した。ギフトカード 2,000 円を謝礼とした。(倫理委員会承認；福島県立医科大学倫理審査委員会整理番号：REC2023-084) 本調査は主任研究者が調査依頼や参加者募集を行い、分担研究者が調査項目設定と調査システムの運営を行った。解析は共同で行った。

IV 研究結果、考察及び今後の研究方針

(1) 福島県に関わる（在住・出身者など）AYA 世代がん患者ニーズ調査

2023 年 9 月 1 日～10 月 31 日に、全般的精神健康度（K6）を含めた 52 項目の質問調査を実施した。対象者は、福島県在住または福島県出身の AYA 世代がん体験とし、県内 10 カ所の医療機関内でポスター掲示と調査依頼のカード配布を行った。調査実施期間内での回答登録者数は 27 名でうち 19 名が 52 項目の回答を完了した（回答率 70.4%）。回答者はその 79%が女性で、42%が回答時 30 歳未満であり、甲状腺がんを含めて 9 癌腫以上の罹患経験者から構成されていた。

傾向として、「二次がんや健康への不安、罹患ストレス、周囲との関係性の取り方、経済などに関する悩み」が特徴的として把握された。特に K6 スコア 13 点をカットオフ値として採用した結果、AYA 世代患者の 26.3%が相当県民平均（5.2%）よりも高い数値を示した。階層クラスター分析では、その特徴から 4 つのクラスターに分類された。成果発表会での指摘を受け、県外にも対象者を広げた追加調査として、K6、および、ニーズ把握に項目を絞り込んだ追加調査を全国の AYA 世代を対象に WEB 調査にて次年度に実施する。

(2) 福島県における最適なピアサポート体制の素案検討

調査結果をもとにピアサポートの①実施体制や運営形態、②運営基本方針、③プログラム評価方法を検討し、④運営マニュアル（案）の素案を作成した。

(3) ポータルサイトのコンテンツ検討

調査結果をもとに、コンテンツ作成の基本は、医療機関、ピアサポートなどによる「具体的に気軽に相談、悩みごとの分かち合いのプラットフォームづくり」とした。

V 結論

1. 福島県に関わる（在住・出身者など）AYA 世代がん患者ニーズ調査

「二次がんや健康への不安、罹患ストレス、周囲との関係性の取り方、経済などに関する悩み」が特徴的として把握された。本結果が福島特有の課題なのか、AYA 世代全体の課題なのかを明らかにするため、対象を広げ、調査項目を厳選した再調査を次年度に行う。階層クラスター分析からは 4 クラスターが分類され、後遺症・晩期合併症が多く相談の機会を多く持てるクラスターがある一方で、後遺症が少ないために相談機会を持てないクラスターがあることが示唆された。これに対応したピアサポートのプログラムを用意することが重要と考えられた。

2. 福島県における最適なピアサポート体制の素案検討

調査結果をもとにピアサポートの①実施体制や運営形態、②運営基本方針、③プログラム評価方法を検討し、④運営マニュアル（案）の素案を作成した。

3. ポータルサイトのコンテンツ検討

他の AYA 世代のがんなどの情報サイトや患者会活動との連携のほかに、二次がんなど健康不安を和らげる情報提供（次世代影響含む）、健康管理や栄養、アピアランスケア、周囲とのコミュニケーションに関わる心理講座の開催を検討する。

引用文献

なし